



少年センターだより

令和2年11・12月号(第409号)



毎月1日「少年の日」 ☆育て少年心豊かにたくましく! 第3日曜日「家庭の日」 ☆咲かせよう明るい会話, 家族の輪

少年補導委員の活動

大村市少年補導委員連絡協議会では、青少年の非行・被害防止・健全育成をめざし、「愛の声かけ」を中心に毎月2回の定期巡回補導を小学校区ごとに実施しています。今回は上半期(4月~9月)の子どもたちの状況についてお知らせします。

- ・自転車の無灯火、中学生のヘルメット無着用等への注意を行った。
- ・アーケードで高校生の自転車違反(歩行者専用時間帯の乗車)があったので、押して歩くように指導した。
- ・ガードレール越しに自転車が歩行者のスピードに合わせて話しながら並走していたので指導した。
- ・台風の強風のため諏訪駅駐輪場の自転車が転倒していたので、隅の方に移動した。
- ・声かけ事案や不審者情報が発生したときに、周辺を念入りに巡回した。
- ・公園で大きな音を鳴らす等の迷惑行為があり、見回りを強化した。
- ・夏休み期間中に郡川での遊泳があったので指導し、各小中学校へ情報提供した。
- ・9月に入り暗くなるのが早くなったので、帰宅中の中高生に気を付けて帰るよう声をかけた。

各地区からの報告では、自転車マナーに関する報告が最も多く、その他にも危険行為や迷惑行為への対応などもありました。上半期は新型コロナウイルスの影響もあり、屋外で子どもの姿を見かける機会が減少しました。しかし、どのような状況でも子どもたちが安全に安心して生活できるよう、大人が力を注がなければなりません。大村市少年補導委員連絡協議会は、子どもたちの非行・被害防止、安全確保のために、今後も見守りと愛の声かけを続けていきます。

街頭補導巡回車 愛の声かけ運動中



大村市少年補導委員
連絡協議会



11月は「ココロねっこ運動強調月間」



11月は内閣府の「子供・若者育成支援強調月間」であり、長崎県では、県民運動である「ココロねっこ運動」の強調月間として、子どもを守るための様々な取組を行います。

今年は新型コロナウイルス感染症の感染防止のために、市教委主催の「ココロねっこパレード in おおむら」の開催を断念しました。しかし、広報啓発活動、立入調査による環境浄化活動、補導活動の強化などに取り組み、子どもたちを見守り健全に育てる環境づくりを進めていきたいと考えています。

「子ども 110 番の家」

子ども 110 番の家とは、子どもが不審者等から被害にあった、またはあいそうになったと助けを求めてきたときに保護し、警察等へ連絡するなどして、地域ぐるみで子どもたちの安全を守っていくボランティア活動です。登録している家や事業所には、目印の「黄色の旗」が掲げてあります。大村市には 350 ほどの子ども 110 番の家があります。



大村市少年センターでは、現在、事業所や個人宅の旗の交換を進めているところです。新規登録を希望される方は、少年センターまでご一報ください。

＜ 連載コラム ＞

「聞く」と「聴く」。

「時間がない!」「早くしてよ!」「えー、また一何の話」と心で思い、手は別のことをしながら、パソコンやスマホをしながら、あるいはまなこは落ち着かず、違う方向を見ていて聴いたふりをする。とうとう最後には、自分勝手に自己理解をし、話をさえぎり、自分の考えを相手にぶつけ返す。話している相手は「聴いてたの」「そうーじゃ…ないんだけど…」とないがしろにされた気分になる。いくら上手く聴いたふりをして相手には伝わります。こんなことが繰り返されると、相手はいつしか「この人とは話したくない」「この人には相談出来ない」という、諦めと不信感がつのっていき関係性が悪くなっていきます。

人は誰しも「自分を理解して欲しい」という欲求を心の奥に持っています。解決して欲しいのではなく、ただ聴いて欲しい。ただ自分の心を知って欲しいだけです。でも、聞いて（聴いて）いる側は、「今はそれどころじゃないんだから」「どうして欲しいわけ」「だから何」と無意味でむだな時間を過ごしている気持ちになっているのかもしれない。

相手には相手の思いがあります。だから、まずはただ聴く。それだけで、相手の心は浄化されるのです。単なる雑談であれば、自分の意見や考えもどんどん言ってコミュニケーションを深めればいいのですが、相談やこちらの質問に対しての会話であれば、耳を傾け聴くことが特に大切です。正対し、相手の目を見て、聴いて、受け止める。意見は必要ありません。人は話しながら心を整理し、話すことで心が楽になるのです。問題を解決出来るのは本人だけ。だから、一生懸命聴いて、その内容をじっくり伝え返してあげるといいのではないのでしょうか。自分が話した内容が他者の口を通して返ってくると、客観的に自分の心がわかり、問題が見えてきます。さらに、話を聴いてもらった喜びと聴き手の優しさが身にしみ、安心し冷静になれるのです。話を聴いてくれた人だから、その助言は相手の心に素直にしみ入ります。聴いて聴いて受け止める姿勢こそ、子どもにかかわる私たちの、いや人としての基本の姿勢ではないのでしょうか。

＜ ひびK・I ＞



青少年に関する相談は少年センター（月～金 8:30～17:30）へ

☆相談電話(ヤングテレフォン)0957-49-5263

☆ Eメール相談 : kiitekudasai@city.omura.nagasaki.jp